

広報ただみ診療所

認知症の新薬について

朝日診療所 所長 わかやま 若山 たかし 隆



2024年を迎えましたね！今年も皆様にとって良い年になることを願います。

さて今回のテーマは認知症の新薬についてです。2023年12月13日、アルツハイマー型認知症の新薬であるレカネマブ（商品名 レケンビ）が保険診療の適応承認となりました。このお薬の良い点と問題点を解説したいと思います。

まず良い点ですが、これまでの認知症の薬と作用が大きく違います。従来の認知症の薬は、一時的な症状の改善を図るものの、脳の神経細胞が壊れていくのは止められず、症状の進行を抑えることはできませんでした。しかしレカネマブは、神経細胞を死滅させる「アミロイドβ（ベータ）」という物質を除去することで、ある程度死滅を防ぎ、症状の進行を遅らせる効果が認められています。臨床試験の結果によりますと、レカネマブを2週に一度、投与した人たちは、1年半後、投与していない人たちに比べて、悪化の数値を27%抑えることが出来たということです（レカネマブ 国内承認へ 認知症の早期診断が重要に NHK解説委員室 <https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/486960.html>より）。

問題点としては、①遅らせるといっても根治はできないこと（製薬会社の試算によれば症状の悪化を2年から3年ほど遅らせる効果）②早期のアルツハイマー型認知症の方にしか使えないこと（アルツハイマー型以外の認知症や、進行した方には使えない）③現時点では高度専門医療機関でしか投与できないこと④副作用があること（臨床試験では、投与された人の17%に微小な脳出血が出現し、12%に脳浮腫が確認されるなど）⑤頻回の通院が必要なこと（2週間に1回の注射）⑥高額であること（体重が50キログラムの人の場合、年間費用は298万円ほど）が挙げられます。

高度専門医療機関の基準がかなり厳しく、しばらくは大学病院などの専門的な医療機関での使用に限られ、通院の負担もあるので、実際に投与される方は少ないと思われそうですが、認知症の未来にすこし希望がもてる話題だと思えます。

地域おこし協力隊として Vol.109

只見町教育振興協力隊 そうくら 宗倉 しおり 汐理



小さい頃にアニメや映画で見ていた、通話相手の顔がディスプレイに映っての会話。たったの十数年で現実になりました。スターウォーズの、「助けてオビワン、あなただけが頼りです」のシーンを再現できるデジタル機器ができるのもそう遠くないですね。

このように私たちが今生きる世界は目まぐるしいスピードで、考え・価値観・技術、様々なものが変わっていきます。そして私たちはその中で生きていかなければなりません。子どもの頃は勉強できる（というか勉強が義務なところもあるので）、環境でしたが、大人になるとなかなか時間も取れない忙しい億劫だし。勉強の大切さを知っているのになかなか手が出ません。かくいう私もそうです。

そんな私ですが、少し勉強しようと思ったきっかけがあります。

ひょんなことから、以前4年間滞在していたインドネシアのことを只見町にきて思い出すことがありました。一つは技術研修員でインドネシアの方がいると知ったとき。一つはやまいちコーヒーを訪れたとき。懐かしいなと思うとともに、せっかく覚えたインドネシア語を忘れかけていることに気がつきました。

せっかくなので、これだけ覚えればインドネシア旅行でめちゃくちゃ使える！厳選語録を勝手にお裾分けします！

インドネシア語→【近しい英単語】（翻訳）

チョバ ボレ？→【can try】（試していいですか？）

サヤ マウ イニ →【I want this】（私はこれが欲しいです）

テリマカシ バニヤック →【thank you very much】（めちゃくちゃありがとう）

ベロ キリ/カナン →【turn left / right】（左/右に曲がってください）

インドネシア語は単語を知っていれば文法がちょっと変でも、日常会話程度であればだいぶ伝わります。英語の文法と似ている部分も多いので、英語変換したりすると二倍勉強した感じがしてお得です。

学ぶきっかけを逃さず掴み取り、日々学び続けていきたいです。